

令和4年度 あおもりフィールドスタディ支援事業

SDGs11ちゅっぴいふあ〜む つながるプロジェクト

ちゅっぴいふあ〜むサークル

1.ちゅっぴいふぁ～むサークル紹介

メンバー 青森中央短期大学、青森中央学院大学、大学院に在籍する学生、

(ベトナム・タイ・マレーシア・中国からの留学生含む)

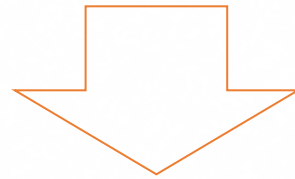
設立 令和4年4月

目的 野菜、花、多肉植物などの植物の栽培、収穫、調理、加工、
展示を通して作物の育て方や園芸療法についての知識をつけること、
地域の方々や他学科との交流を目的とする。

2. プロジェクトのねらい

事業目的

全国的に増えている空き農地の増加は雲谷、横内にも増えている。しかし畑やノウハウはなくとも植物や野菜を育てる体験をしてみたい地域の人（留学生含む）の存在も考えられる。景色のよい高地の雲谷や、青森県の重要文化財としてゆかりのある横内城跡地の活性、愛着、癒しを目指し人とのつながりを目的とする。



高齢者の交流人口の増加、世代間(国際)交流の促進
横内・雲谷地区の活性化/SDGs11住み続けられる街づくり

農作業体験の機会を提供するコミュニティファームで人とのつながりや健康増進を目指す。収穫物で「**みんなの食堂**」**世代間交流**の実施

➡ 孤立孤独の軽減

3. コミュニティファームの位置 (県内一古いお寺の横)



4. コミュニティファームの活動

コミュニティファーム雲谷		コミュニティファーム横内	
1	8月 看板作成、土づくり (3名)	1	8月 看板作成、土づくり (5名)
2	8月 夏野菜定植 (4名)	2	8月 花の定植 (16名)
3	8月 夏野菜定植 (7名)	3	8月 夏野菜収穫・みんなの食堂－ハーブで肉料理－ (19名)
4	8月 夏野菜定植 (4名)	4	8月 夏野菜収穫・みんなの食堂－多国籍料理－ (22名)
5	8月 夏野菜定植 (8名)	5	8月 夏野菜収穫・みんなの食堂－イタリア煮込み (28名)
6	8月 花と定植 (10名)	6	9月 夏野菜収穫・みんなの食堂－タイのかぼちゃスープ (218名)
7	9月 夏野菜収穫・みんなの食堂－イタリア煮込み料理 (7名)	7	9月 ラベンダーバスソルト作り (11名)
8	9月 夏野菜収穫・みんなの食堂－べんり菜味噌汁－ (4名)	8	9月 畑整備、「みんなの食堂」ベトナム料理 (26名)
9	10月 夏野菜収穫 (2名)	9	10月 畑整備、「みんなの食堂」イタリア煮込み料理 (23名)
10	11月 秋野菜収穫・畑じまい (2名)	10	11月 つけものグランプリ、畑じまい (12名)
		11	3月 魔女集会上級 (70名)

合計501名

5.活動内容



○8月コミュニティファーム雲谷で学生と留学生・地域高齢者が夏野菜を定植し、収穫物を使って調理し共食した。

【参加者の声】

ベトナムでは土に触ったことがなかったからとても楽しかったです。土づくりが大変だけど野菜ができるのは楽しみです。

【成果・課題】

野菜や花の世話を、世代間で行い交流することができた。とれたての野菜のおいしさを体験できた。この活動で、1つの空き農地が有農地となり感謝された。しかし、学生は学校から距離があり畑に毎日通い、水やりがなかなか難しいと感じた。

6. 活動内容



○8月～11月主として地域の幼児～高齢者の方と夏野菜やハーブを植え、育てて収穫したもので食事をつくって共食した。

県外からのワーケーションとしての参加もあった。

【参加者の声】 横内にこんなにすてきな畑があるの知らなかったです。みんなで、一緒に獲れたての野菜を食べて美味しかった。コロナ禍でイベントが減り外に出る機会も減っている中、とても嬉しい取り組みです。2歳の子どもは草取りで気分がスッキリしたといってます。

大変よかったです。国際交流どんどん続けて下さい。

【成果・課題】

植物の世話で多世代の人的交流が促進された。また、物価の高騰から野菜等を育てる方法の獲得は学生や住民の自活力につながると考えられる。

しかし、肥料など費用がかかることから費用の解消方法を模索することと、参加したくてもできない人への介入が必要であると感じた。

7. 収支決算

1 収入の部

(単位:円)

区 分	決算額	摘 要
自己負担額	110,467	
大学地域活動費	10,467	
青森市産官学連携 プラットフォーム事業費	100,000	
市補助金額	400,000	令和4年度あおもりフィールドスタディ支援事業助成金
合 計	510,467	

2 支出の部

(単位:円)

科 目	決算額	内 訳		摘 要
		自己負担	補助金	
事務費	356,664	109,764	246,900	消耗品、園芸用消耗品、文具
原材料費	49,153	153	49,000	みんなの食堂食材
報償費	5,100		5,100	技術指導料
印刷製本費	99,550	550	99,000	活動冊子製作費
合 計	510,467	110,467	400,000	

8.成果報告

- ・屋外のイベントは新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい性質があり、運営に影響しにくく**合計501名**の参加が得られた。
- ・参加者へ参加後の聞き取りでは、楽しかった・また参加したいとの感想がほとんどであった。
- ・右(図1)に示すとおり、孤立・孤独の軽減を中心としたコミュニティファームの活動で人的交流の促進によって多くの意義が考えられる。
- ・それは「温暖化防止に貢献」できる他「健康」「地域活性」「心の癒し」「自活力」「人とのつながり」「多様性」「植物への関心」「コミュニケーション力」に寄与できると示唆される。
- ・またコミュニティファームは、避難所としても機能することが期待できると考えられる。
- ・この活動によってコミュニティファーム雲谷は、空き農地から有農地となり感謝された。

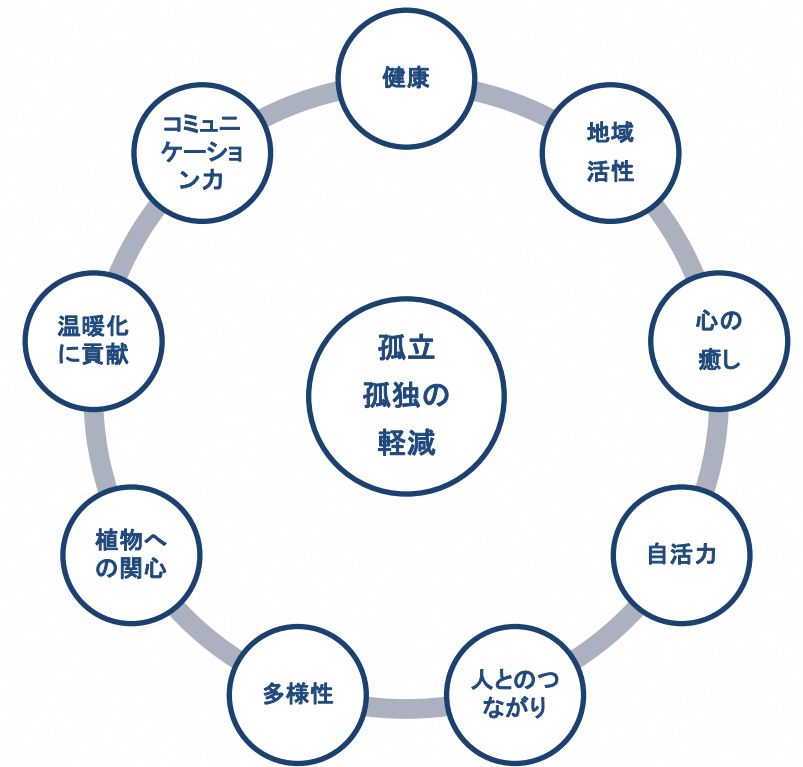


図1 コミュニティファームの意義

9.総評

2019年末から新型コロナウイルス感染症の流行により、国全体の人的交流が制限され、今年度も終息していないなか、各プログラムは屋外での実施が中心であり影響されず人的交流の促進につながった。

本プロジェクトによって地域住民の人的交流の促進から、孤立孤独の軽減のみならず、広範な意義が考えられSDGs11住み続けられるまちづくりにつながると示唆された。

○御礼

コミュニティファームを地域交流のために提供してくださいました石澤きさ様・小山内勉様に心より感謝申し上げます。

